

おおさき

～大きい輪、和、話～

Osaki

“普及員の果たすべき役割”



農業人材の確保・育成 産地の形成

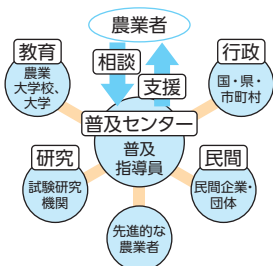
品質向上のための技術講習会

新規就農者への巡回指導



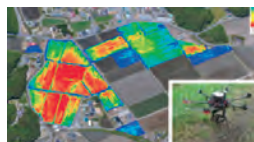
地域農業の コーディネート

教育機関、試験研究機関、
民間、行政と連携を図りながら
農業者への指導、相談を
行います



新技術の現場定着

ドローンによるリモートセンシング



新品種の導入



その他の取り組み

- ・営農計画づくりの相談対応
- ・気候変動に対応した農業の推進
- ・鳥獣被害防止に向けた支援
- ・自然災害への備えや営農再開に向けた支援

ハウス環境モニタリング装置で
データを「見える化」



晩秋真つただ中、朝夕めっきり冷え込む季節となりました。みなさまには、日頃普及センター業務に御理解・御支援をいただき厚く御礼申し上げます。

元号が令和に変わりました昨年は、東日本台風による災害に見舞われました。年が明けた令和二年になり、新型コロナウイルス感染症による災害と言つていいほどの影響を受け続けているところです。

三密(密閉・密集・密接)・ソーシャルディスタンス(社会的距離)・新生活様式といった昨年までは聞いたことのない言葉が飛び交うようになりました。

新型コロナウイルスは、すべての業種に大きな影響を与え続けています。私たちのこれまでの常識が通用しなくなりました。農業分野においても例外ではなく、国民の行動様式や食生活の変化により農畜産物、特に花きや牛肉が影響を受けています。

県も国とともに「コロナ被害」の軽減に努めているところですが、前例や経験が無いなか暗中模索をしながらの支援となつているところです。

普及指導員は、地域農業の主役である農業者をサポートしています。普及指導員は国家資格を有する県の職員です。農業現場の最前線で、農業技術を核に農業者の経営力向上を図る活動を行っています。

普及センターでは、今後とも地域農業の振興に向けて皆様とともに取り組んで参ります。

大崎農業改良普及センター

普及指導専門監 大友 一博

～災害を乗り越えて～

活力ある中山間集落の実現に向けて

加美町西部薬菜山の南東の麓に位置する東鹿原（ひがしかのはら）集落は総世帯数約90戸、農家戸数約60戸の中山間地帯にあります。地域の営農は平成19年3月に設立された集落営農組合が担っており、令和2年2月に組合員の一部が農業法人「アグリ神明」を設立しました。

当地区では、平成27年度にはほ場整備事業（農用地面積48.5ha）が採択され、令和2年度は約15ha作付けする予定でした。しかし、令和元年の東日本台風の影響で堰が壊れたことにより水を確保できなくなり、水稻の作付けが困難となったため急遽、品目を大豆に変更しました。同法人は大豆栽培の経験がなかったことから、普及センターでは、活動の一つの柱として当該法人の大豆栽培技術支援を行いました。30haを超える面積に取り組みむということで、施肥量など慎重に検討し、時期ごとに生育調査を実施し、情報提供を行いました。今年度は栽培管理が難しい気象条件でしたが、相応の収量が見込まれ、手応えを感じているところです。

また、3年目となる春玉ねぎの栽培実証と新規販売品目の試作（調査）にも取組んだほか、鳥獣被害



＜玉ねぎの生育調査＞

対策として専門家を招いた現地研修会を開催しました。

当地区での3カ年のプロジェクト活動は終了しますが、地区内の担い手として法人が設立され、水稻、大豆を主軸に高収益作物として春玉ねぎが定着しつつあります。

また、鳥獣害対策では研修会に加えて情報提供も行い、理解を深めることができました。

今後とも普及センターでは、法人の運営や大豆の生産技術および地域の営農システムの確立など、必要に応じ、支援活動を継続していきます。

岩出山産大豆の収量・品質安定化を目指して

大崎市岩出山地域では、水田農業を推進していく上で大豆は重要な作目となっています。また、平成30年に「岩出山凍り豆腐」がG I（地理的表示）に登録され、今後ますます原料である岩出山産大豆の収量・品質の確保が求められています。しかし、岩出山地域は大豆の連作ほ場が多く、地力の消耗、アレチウリや帰化アサガオ類といった難防除雑草の発生等から収量・品質に悪影響を及ぼし、また一部の生産者は作付面積が大きく、適期に作業ができないといった現状があります。

そこで、普及センターでは、岩出山地域の大豆の収量・品質の安定化に向けたプロジェクトを展開し、栽培技術習得及び作業改善に向けた支援を行っています。

これまでの取り組みとして、緑肥の投入による地力改善や効果的な雑草防除などの栽培管理について巡回指導を行ったほか、JAと協力し、大豆の現地

検討会や岩出山凍り豆腐加工生産者との情報交換会などを行いました。

また、作業工程管理の現況調査を行い、栽培管理やスケジュールの改善策を示しつつ、作業スケジュールの見える化を図りました。

今後は大豆の適期刈取りに向けた指導を行うことで、岩出山地域の大豆の収量・品質向上に向けた支援を行っていきます。



＜緑肥ほ場のすき込み確認＞

畜産新規就農者の経営の安定と規模拡大を目指して

和牛子牛が高値で取引され、和牛繁殖経営を継承・開始する新規就農者は増加しており、地域の担い手として期待されています。

経営開始時に畜舎や繁殖基牛の導入など多額の初期投資が必要で、繁殖基牛導入から子牛生産販売までには2年程度必要なほか、子牛の売り上げが安定して得られるまで、数年の経験が必要であることから普及センターでは、繁殖台帳の記帳や母牛の個体管理の徹底と子牛の飼養管理改善や経営管理能力の向上による経営の安定と規模の拡大をサポートしています。

飼養管理改善の検証として、対象者の4月から10月まで市場出荷された子牛16頭について、発育を体高値で確認、月齢ごとの発育標準値との比較により、牝は標準よりやや大きく、去勢牛の発育は良好であることを確認しました。

また、個別農場の巡回により飼養管理状況の確認を行い問題点の把握と改善を実施しています。

これにより、子牛育成に係る畜舎構造の問題点に

ついて確認し、既存施設の活用による分娩舎・子牛舎の設置を計画中です。

さらに、経営改善資金活用により、繁殖素牛の導入による経営拡大を計画している生産者に対して、具体的な動態表作成の支援や自給飼料の生産拡大に向けて、草地更新時の土壌分析と施肥設計を行いました。

今後も市町等との連携により、畜産新規就農者の飼養管理改善により経営の安定・拡大に取り組んでいきます。



＜大崎市での巡回の様子＞

大崎市古川産なすの技術革新による収量・品質向上を目指して

大崎市古川はなすの指定産地で、なすは重要な園芸品目になっています。生産は主にJA古川なす部会と㈱てくてくファームにより行われていますが、近年、収量が伸び悩んでいます。その要因としては連作による青枯病等の土壌病害の他、夏期の高温の影響による生育不良が挙げられます。

また、施設園芸においては環境の「見える化」とそれに基づく栽培管理の改善により、収量と品質を向上させる環境制御が全国的に注目されており、管内でも関心が高まっています。

そこで、普及センターでは大崎市古川産なすの収量・品質の向上に向けてプロジェクトを展開し、土壌病害の体系防除及び環境データを踏まえた栽培管理技術の習得に向けた支援を行っていくこととしました。

これまでの活動として、土壌消毒と高接ぎ木を組み合わせた体系防除の実証ほを設けた他、メーカーによる指導のもと、屋根に塗るタイプの遮熱資材の実証ほを設け、調査を行いました。遮熱資材は夏期

の高温抑制効果が認められ、生産者からも高評価をいただきました。

環境制御の取り組みの第一歩として、環境測定機器を施設内に設置して夏秋なす栽培下での環境条件を明らかにし、得られた環境データを基に温度管理や灌水管理を改善しました。また、メーカーの担当者を講師に、勉強会を開催し基礎知識の習得を図ったほか、環境制御に取り組む生産者間では場を巡回し、お互いに意見交換を行いました。

今後も大崎市古川産なすの収量・品質向上を目指して支援していきます。



＜生産者とメーカーを交えて栽培管理について検討＞

令和2年度第1回大崎地域 農業改良普及活動検討会開催

普及センターでは、農業者や地域住民に理解され、効率的で効果の上がる普及指導活動を推進するため、外部の委員（普及活動検討委員）から御意見を頂く「大崎地域農業改良普及活動検討会」を毎年開催しており、今年度第1回目となる検討会を9月8日に開催しました。

はじめに、普及センターが重点的に取り組むプロジェクト4課題のうち、株式会社てくてくファームのなす栽培ハウスで実施している環境測定器によるデータの見える化と、週間環境データ自動計算シートによる栽培管理改善への取り組みの現場を視察しました。

その後、大崎合同庁舎会議室に会場を移し、検討会前半で視察したなすの環境制御に係る新規課題「大崎園芸を牽引するなすの技術革新による生産性向上」について詳しく説明した後、本年度完了となる3つのプロジェクト活動3課題の進捗状況について説明し、御出席いただいた4名の委員からこの半年間の普及活動に関する評価や、今後の活動に対す

るアドバイスをいただきました。検討委員からは「古川の主力野菜であるなすを選定したのはとても良い、経験に頼らず、データに基づいた生産環境の管理は技術の平準化が図られ、青年就農への支援に繋がるので是非とも波及してほしい」、「スマート農業の課題は今後重要」など多くの意見をいただきました。

普及センターでは、今回の貴重な提言を今後の普及活動に活かし、生産者から頼られる普及活動を行っていきます。



＜株式会社てくてくファーム現地視察＞

小瀬菜大根の利用拡大を 推進しています

加美町小瀬地区で古くから生産され地域で消費されてきた伝統野菜「小瀬菜大根」は、一般的な大根とは異なり、葉だけを食べる大根です。根の部分は20cm程度でほとんど肥大しませんが、葉は約1mにも成長し、漬物に加工して冬場の保存食として利用され親しまれてきました。しかし、漬物以外の利用法や出荷先が確立されておらず、地域の財産として生産の継続を模索する農業者はいるものの、現在ではその生産や利用は減少しています。

そこで本年度、県では加美町、加美よつば農業協同組合と連携し、小瀬菜大根の利用拡大に向けた取り組みを行い、10月14日には「小瀬菜大根利用拡大セミナー」を開催しました。セミナーには、地域の飲食関係者や漬物生産者、直売所関係者等が参加し、フードコーディネーターのカワシマヨウコ先生による小瀬菜大根の特徴や利用方法提案の講義のほか、生の小瀬菜大根を部位別に味わい、素材の味を確認しました。

さらに、葉をじゃこや豆腐、油揚げと炒めたチャ

ンプルーや、これまで未利用だった根の部分の辛みを生かした和え物等、カワシマ先生が考案したメニューを試食し、根の部分から葉先まで使い切る活用方法を学びました。

参加者から、これまでは「漬物ばかり食べてきたので火を通した料理は新鮮」、「今日のセミナーを参考に新メニューを考案してみたい」といった声が聞かれました。

県では、今後も小瀬菜大根の利用拡大に向けて、生産者や実需者の方々と連携した地域の取り組みを支援していきます。



＜小瀬菜大根利用拡大セミナー＞

農地中間管理事業(農地の貸し借りを支援)がより活用しやすくなりました! 宮城県農地中間管理機構

平成26年から始まった農地中間管理事業も7年目を迎え、令和2年3月末までに北部地方振興事務所管内での農地集積の実績は、出し手から機構が借入れた面積が2,980haで、機構から受け手へ貸付けた面積は2,882haになっています。

事業を活用されている出し手、受け手からも「安心して農地を任せられる」、「規模拡大が図れた」等、多くの声をいただいています。

このような状況の中、令和元年5月に農地中間管理事業の関連法律が一部改正され、令和2年度からは、JAが窓口として取り組んでいた農地利用円滑化事業が、農地中間管理事業と統合一体化されることになりました。

その他、契約方式がこれまでの2者契約(①出し

手と機構、②機構と受け手)から3者契約(出し手と機構と受け手)となり、事務手続きの簡素化等が行われています。機構独自としても、事業活用者等から多くの意見をいただき、①貸借期間を10年以上から5年以上に短縮。②受け手要件を認定農業者等に加え、地域農業の維持に意欲と能力を有する者を適用し、農地中間管理事業が「より貸しやすく、借りやすく」になりました。

また、機構に農地を貸した地域・出し手には、一定の要件を満たせば「機構集積協力金」が交付される制度も引き続き実施されています。

さらに、機構単独事業の地域・受け手に対する支援措置も実施されています。

詳しくは、各市町農政主務課、農業委員会(農業委員及び農地利用最適化推進委員)、JAのほか、北部地方振興事務所農業振興部、宮城県農地中間管理機構(地域コーディネーター)にご相談ください。

宮城県農業大学校生が 農業体験学習をおこないました

宮城県農業大学校では、一年生のカリキュラムで農業体験学習を行っています。今年は、新型コロナウイルスの影響で、例年33日間のところを9月18日から10月9日までの22日間に短縮されて実施されました。

大崎管内では、水田経営学部、畜産学部の計4名の学生が研修しました。10月9日の終了式では、一回り成長した学生の姿がみられました。

また、今年は、受入が10回目の農家、5回目の農業法人、初めて受入した農業法人があり、それぞれ宮城県知事、農政部長、農業大学校長から感謝状が贈呈されました。



宮城県農業大学校令和3年度学生募集

宮城県農業大学校の募集学部、募集人員、募集期間は下記のとおりです。詳しくは大学校ホームページにて確認ください。

(<https://www.pref.miyagi.jp/site/noudai/>)

●**募集人員** 55名(水田経営学部15名、園芸学部15名、畜産学部15名、アグリビジネス学部10名)

●**一般入校試験(前期)**

募集期間: 令和2年11月5日~11月20日

試験日: 令和2年12月4日(金)

●**一般入校試験(後期)**

募集期間: 令和3年1月15日~1月29日

試験日: 令和3年2月10日(水)

※前期試験で定員に達した学部は後期試験を実施しないことがあります。一般入校試験(後期)の募集人員は令和3年1月上旬にホームページ上に掲載します。

問い合わせ先 宮城県農業大学校教務部

TEL 022-383-8138

よろしく
お願いします



にゅーふえいす

令和2年11月新規採用
氏名: 菊池 光洋(きくちこうよう)
所属: 先進技術班
担当: 野菜

新農業士の紹介 ～新たに1名が認定されました～



◎指導農業士 桑添健一さん（大崎市三本木）

収支と労働配分のバランスを考えた、水稲+大豆+長ねぎの複合経営に取り組まれています。長ねぎ栽培は伊場野地区における先駆者でもあり、JAを始めとする複数先への出荷（販売チャネルの多角化）や長年にわたる商品検討（労力分散や顧客の好み、危険分散などを考えて）も行っています。水稲においては多収米による収量確保や作業時間を考えた出荷先の選定も行っています。

また、青年農業士時代には4Hクラブ員への技術指導を行うなど後継者育成の実績があるほか、地区農政推進員、大崎市認定農業者連絡協議会役員を務めるなど、地域農業の推進にも貢献されています。

お疲れ様でした ～2名の方が退任されました～

◎高橋道代さん（指導農業士 大崎市岩出山）

自園地栽培のとうがらしで作った「よっちゃん生ラー油」などの商品開発や「農家のぬくもり弁当」の製造・販売等地場産農産物の魅力発信も行っています。

◎安達 純さん（青年農業士 大崎市岩出山）

就農とともに4HCに入会し、長年にわたり活躍され、地区連会長も務められました。夫婦そろって酪農に取り組み、飼養管理技術の向上と経営の安定を図っています。

令和2年度宮城県農林産物品評会・花き品評会

大崎普及センター管内からは、うるち玄米10点、野菜9点及び花き6点の出品をいただき、当管内では次の方々が入賞されましたので、お祝い申し上げます。

◎宮城県農林産物品評会

【知事賞】[2等] ほうれんそう：片倉明広氏（色

麻町）

◎宮城県花き品評会

【金賞】ばら：鈴木義英氏（加美町）、パンジー：榎宮城フラワーパートナーズ（加美町）

※出品されたうるち玄米、野菜、花は、県内の児童福祉施設等へ寄贈されました。

やさいの日（8月31日）料理研修会を行いました

大崎地域農村生活研究グループ連絡協議会では令和2年8月31日(月)にグループ員を対象に「やさいの日料理研修会」を大崎市古川のインパルラ浦島にて行いました。

当日はグループ員が生産・販売している夏野菜12品目を提供し、和洋中の4品を作っていただきシェフからそれぞれの料理について解説をいただきました。

新型コロナウイルス感染対策として入館時の検温の実施やテーブル毎の座席数を減らすなどの対策をしながらの開催となりましたが、プロの手によって鮮やかに変身した我が家の野菜に参加者から「初めての食べ方」「自宅でも試したい」という声がありました。

またグループ員から栽培方法や我が家で食べる方についての情報提供や、「トマトが大量に収穫でき

た時は？」などシェフへの質疑を通じて夏野菜への知識を深めていました。

普及センターでは、今後も生活研究グループの活動を支援していきます。

